

北の子

浜岡北小学校だより 令和3年度9月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

＜重点目標＞

自ら考え行動し 認め合う子

～第2ステージ後半のスタート～

9月1日（水）再延長された夏休み明けの学校初日。通学路では、地域の方が子供たちを笑顔で見守ってくださっていました。コロナ禍で、様々な制約が強られる学校生活に不安もありましたが、朝早くから地域の方の温かな笑顔に勇気づけられ、元気にスタートを切ることができました。ありがとうございます。

例年より長くなった夏休み中、保護者の皆様には、学習面や生活面で子供たちを支えていただき、また、健康面にも配慮していただき、ありがとうございました。夏休みに取り組んだ作品も力作ぞろいでした。（←HPに掲載）

学校では、夏休みの成長をさらに伸ばしながら、第2ステージ後半も、子供たちが目に見えない敵（ウイルス等）に負けず、思いやりの気持ちをもってたくましく過ごすことができるよう、教育活動の工夫を講じます。緊急事態宣言や蔓延防止措置に伴い、年間計画の変更も余儀なくされていますが、子供たちの笑顔と穏やかな生活を第一に考え、大切にしていきます。

今後も御支援、御協力をお願いいたします。

9月1日（水）の「おはよう黑板」より

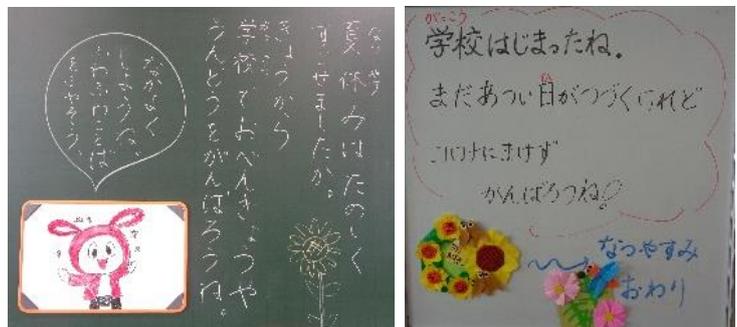
さて、9月5日（日）に閉幕したパラリンピックでは、多くのパラリンピアンが、目標に向かって粘り強く最後まで競技する姿に、感動を覚えた人も多かったことと思います。

昨年度「オリパラムーブメント」で北小に来て、子供たちと触れ合ってください

った山本篤選手も、39歳で自身の持つ日本記録を更新し4位となる大活躍をしました。世界の舞台上で躍動するあの義足を間近で見て、山本選手本人から思いや考え方を生の声で聴くという貴重な経験ができた北の子たちは幸せだなと改めて感じました。

山本選手だけでなく、どのパラリンピアンも、自分に厳しく、でも前向きや感謝の心を大切にしていると、競技を終えた後、紡ぎだす言葉やあふれる涙には胸が熱くなりました。

ハンディキャップを強みにかえるポジティブな考え方や生き方は、尊敬にも値し、北小の教育が目指す「たくましさ」にもつながるものです。また、選手を支える周りの人々、家族・指導者・ボランティアなど多くの方々が、選手自らのもつ力を最大限に引き出しながら、温かく見守る姿から、本当の「思いやり」とは何かを学ばせていただいたように思います。



「お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。」と心から伝えたいです。